



第58号

2023(令和5)年6月8日 発行 高田短期大学・編集 図書委員会



通信



TAKADA GAKUEN

目次

学長インタビュー	P2-P3
子ども学科、育児文化研究センター、自然のなかで	P4-P5
オフィスワークコース、キャリア研究センター、連携協定	P6-P7
介護福祉コース、介護福祉研究センター、外国人留学生支援室	P8-P9
仏教行事委員会、仏教教育研究センター、研究余滴	P10
キャリア支援センター、ボランティア活動支援室、 保健室・学生相談室・カウンセリング室	P11
学生自治会、部活動、図書館公開講座	P12
卒業式・入学式、新入生研修、入試広報委員会、同窓会、ふるさと納税	P13
着任のみなさん	P14
人生余滴、人事、公告	P15
就職状況一覧	P16

高田の同窓生

— 高田とのつながりは？

学長 中学・高校と高田に通っていました。当時、仏教の授業を担当されていたのが、前学長の梅林先生と前前学長の栗原先生なんです。また20年近く非常勤としてこちらで仏教を教えさせてもらってますから、高田短期大学とのご縁は深いですね。

自分の世界を ほんとに広げてもらった学生時代

— お寺さんにお生まれになった？

学長 お寺に生まれたので、継ぐという意識はありましたが、大学は仏教と関係ない慶応に行っていました。その後、祖母が亡くなったりして、継ぐならちゃんと仏教を学ばんとあかんと思うことがあって、それで龍谷大学に入り直して、ちゃんと仏教のことを勉強して、幸い、お念仏に出遇えましたので、お寺を継ぐことになりました。

大学時代はいろんな友達と知り合えたのがよかったですね。やっぱり大学となると、同級生の出身地も違えば、考え方や性格や趣味も違っていろんな子がいて、高校よりもぐんと視野が広がりました。授業も面白かったです。自分の世界をほんとに広げてもらったのが学生時代でした。



— 東京での学生時代はどうでしたか？

学長 慶応では、文学部の、まだ出来てすぐくらいの人間科学専攻に。そこでは、哲学と心理学と社会学の授業がすべて人間科学の授業として認められたんです。たとえば心理学の授業だと、慶応には慶応病院があるんで、その精神科の先生が、前半普通の授業をして、後半は、実際にあった症例を話してくれて、具体的なだけに結構面白かったです。

このとき心理学の授業とかで学んだカウンセリングの技術なんかは、今、お寺で、悩みごとなども含めて、いろんなお話を聞かせてもらう機会が多いんですけど、そういうときに役に立ってる気がします。もともと人の話を聞くのが好き、ということもありますけど。

演劇論みたいな講義では、週替わりで俳優や女優が来て、先生と対談していました。ある時、ある女優が朗読したんですけど、実際に朗読が始まると、それまでの対談とは全然違って、声だけなのにその世界にグッと引き込まれたんです。臨場感がすごくて。その経験は、今、私が授業で何かのエピソードを読むときには意識していますね。なるべくみんながその話に入りやすいようにって。

阿弥陀仏のことを教えてくださった先生

— 龍谷大学時代はどうでしたか？

学長 龍谷大学でのゼミの先生は、浅井成海（じょうかい）先生でした。この先生は、人間としても素晴らしい先生でした。たとえば、怒ったところを見たことがないですし、誰に対しても「ありがとうございます」とおっしゃってました。また、一番最後にお会いした時には、別れ際、「また会います」とおっしゃったんです。普通は、「また会いましょう」とか「また会えるといいですね」ですよ。けど、先生は断定形で「また会います」と言われて。で、その後、往生されたんです。今思えば、私たちは、お浄土でまた会うわけですから、「また会います」とおっしゃったんですよ。

先生からは、「極重悪人唯称仏」と書かれた色紙もいただきました。それは、正信偈（しょうしんげ）の

極重悪人唯称仏（ごくじゅうあくにんゆいしょうぶつ）

我亦在彼摄取中（がやくざいひせつしゅちゅう）

煩惱障眼雖不見（ぼんのうしょうげんすいふけん）

大悲無倦常照我（だいいむけんじょうしょうが）

今年4月1日付で新たに学長に就任された清水谷正尊先生にお話を伺いました。

（聞き手：大野照文 写真：青木法子）

という文章からの言葉で、「私は煩惱にまなこをさえぎられているので、仏の姿を目で見ることはできないけれども、阿弥陀仏は、いつも私を照らしてくださっている」という言葉なのですが、最初に「極重悪人唯称仏」とあって、そうやって阿弥陀仏はいつも私を照らしてくださるから、だからこそ「極重の悪人である私は、ただ仏の名をと能えるだけです」という言葉になるわけです。

自分のどうしようもなさというのは、否応なく、自覚させられるところですから、そういう私も見捨てられることなく、照らしてくださっているんだという、この言葉を先生からいただけたのは、うれしかったですね。

学問のしかたを教えてくださった恩師

— 研究も深めておられますね。

学長 高田派の本山の専修寺に仏教を深く学んで明らかにする教学院というところがあります。ここに居られた、平松令三という先生から、教学院のメンバーにいただきました。そこで、いろいろと勉強させてもらったことは、大きかったなと思います。

仏教を学んだ龍谷大学にはたくさんの先生がいらっしゃって、それぞれ指導してもらった恩師であるわけなんですけど、でもアカデミックな意味合いで、一番なんかいろいろ教えてもらって、実際世に出してもらったっていう恩師は、平松先生なんだろうな、って思います。

念仏や仏教の教えではなく、歴史的なことや書誌学的事実なことというのは全然知らなかったことでしたが、それを先生に教えてもらって、で、いろいろ論文に書いたり、本にまとめたりして、その関係で、たとえば、今度みえむ(三重県総合博物館)で『西方指南抄』について講演するわけですが、そういうようなことも、平松先生がおられたからこそです。そういう意味で、私を一人前の学者に導いてくださったのは、平松先生だと思っています。

学生さんこそ、仏教の話聞いてくれる

— 仏教の講義をされていて学生さんの反応はどうか？

学長 学生さんほど、素直に仏教の話聞いてくれる人はいないんじゃないかと思いますね。仏教は若いうちに聞けと言いますが、学生さん達は本当にまっさらな状態で、こちらの話をどんどんどんどん純粋に素直に吸収していつてくれます。

だから、一年後に講義が終わって、感想を書いてもらうと、たとえばある学生さんは「仏教を勉強する前までは、私にとってあまり関係ないものだというふうに思っていたが、一年間勉強して、とても身近なことであると分かりました。これから先、大変なことや落ち込むことたくさんあると思いますが、この授業で学んだことを思い出して乗り越えていきたいと思いました。仏教を学ぶことができてとても

良かったと思っています」と書いてくれました。こんなふうに仏教に対する意識が180度変わったという学生さんが結構多いんです。

授業では、学生さん達がイメージしやすくなるような具体例をよく話すようにしてはいますが、でも、それを聞いてくれるかどうかは、学生さん次第ですからね。それが、ちゃんと受け取ってくれているんです。それも、ほんとに、素直に受け取ってくれている。高田短大の学生さん達は、すごいな、素晴らしいなって思います。これは、ほんとに教師としては、嬉しいところですね。

学生さん、あきらめやんといてほしいな

— 学生さんに対してのメッセージをお願いします。

学長 「あきらめないでほしい」ということ。別に無理せんでもいいし、めっちゃめっちゃ頑張らんでもいいんですけど、でもあきらめやんといてほしいなと。

学生さん達にとって一番の武器は、若さです。若さの前には、無限の可能性が広がっている。ですから、何かしたいことがあるなら、それをあきらめずにやってもらいたいなって思います。あるいは、思っていたことが出来なくなっても、ほかの道もいっぱいあるわけなんです。たとえ何か一つで挫折したとしても、あきらめないでほしいなって思います。全然大丈夫やでな、って。そういうことを伝えられれば、って思います。

それと、やっぱり心ですね。心で感じて、心を動かして、心が喜ぶような、学生さん達がそういう風に心を動かしてくれるとうれしいですね。教師の私たちにとっても充足感を感じるというか、よかったって思えるのも、学生さんが心を動かしてくれたときですからね。

高校生の皆さんへのメッセージ

— 高田短大をめざす高校生の皆さんにメッセージを。

学長 学長になって、まだ日が浅いですが、ここの先生達はみんな、学生さん達のことを本当に考えてくれてるなあって感じています。そういう先生方が集まっているというのが高田短期大学の魅力なんじゃないかなって。単に知識を教えるだけじゃなくて、学生さん一人一人をみていくっていうか、フォローしてゆく。これは誰一人見捨てないという仏教精神に通じるものがあります。ここまで手厚く学生さん達をみることは、他の大学ではなかなかできないんじゃないですかね。このことは、ほんとに高田短期大学の大きな魅力だと思います。あと、自然が豊かで広々と感じられるキャンパス。そこに、心を広々とさせて下さる先生方がいらっしゃる。ゆったりとした場所で広い心を感じられる。安心して深く学んでいただけるのが高田短期大学ですってお伝えしたいですね。

子ども学科



子ども学科のゼミナール活動

亀山市自然保育実践園での学外授業

1年生後期に亀山市公立園において学外授業を行いました。亀山市との連携事業「自然保育実践園との連携・交流」の一環で、保育園、幼稚園8園で受け入れていただき、12ゼミが訪問をしました。自然公園への散策や生き物ウォッチ、焼き芋などの野外調理、風揚げ、自然物での製作、学生企画のあそび(雨天のため)など、子どもたちとともに活動しながら、保育における環境、保育者のかかわりなどを経験的に学び得る機会となりました。学生さんは「環境が変わる外での活動は、その時々で感じられることが違うと思うので豊かな感性が育っていくのだと感じた」「山をただ登るだけでなく、傾斜のある山を木の根っこに捕まりながら登ったり、バランスを崩して滑り落ちてても何回も挑戦したりする姿、色や形の違う葉っぱやどんぐりを拾うことなど、からだを動かすだけでなく、考える力を育むことができることに気づいた」「地域の方と一緒に子どもたちの成長を見守る様子が印象的で温かさを感じた」などとふりかえり、ゼミ教員は「この体験から積極的に戸外活動を取り入れたい、また自然に触れる保育をしたいと感想を述べる学生が多かった」「地域の方に助けてもらい、地域の方の知恵などをたくさん教えていただいたことが学生には印象的だったようだ」「自発的にあそぶ子どもにどう関わることが保育者の使命という担任の先生の言葉を学生それぞれに受け止めただろう」とふりかえりました。



特別授業「三葉虫を調べよう」

1年生前期に本学図書館長で前三重県博物館長の犬野照文先生による特別授業を実施しました。グループメンバーで意見を交わしながら解を見出すことを目的としたワークショップです。講師から三葉虫についてのイントロダクションの後、現存しない三葉虫について化石をまず各々でよく見て触って考えました。そして、グループ間で意見を交わし、化石から窺える情報からその生物のことを推察したり、三葉虫の動きを想像して表現したりしました。学生さんはグループワークから、「自分が見つけれなかった発見や意見を聞くことができよかった」「自分の意見を伝えることができ成長したと感じた」とふりかえりました。



みえこどもの城・高田短期大学連携事業「みんなあつまれ!たかたんひろば2022」

毎年恒例の学生企画・実践のイベントをみえこどもの城で行いました。今年は参加ゼミが多く、12月に7ゼミ、1月に5ゼミが参加しました。クリスマスにちなんだ製作やハンドベル演奏、自然物での製作やはらぺこあむむの劇、パラバルーンなど、バラエティーに富んだイベントでした。

1年生は親子とのかかわりを積み重ねる場、2年生にとっては、これまでの実習などで培ったことを活かせる場となりました。



(子ども学科長 福西 朋子)

🍷 育児文化研究センター

●おやこひろばたかたん

本センターでは、地域子育て支援事業として、学内で「おやこひろばたかたん」を開催しています。

大学裏山での「森のひろば」は3年目となり、散策や自然物を使ったリース作りなどを企画しています。参加された方からは「心が癒される」との声が聞かれ、子どもの遊び場



というだけではなく、大人の精神的な安らぎの場となっています。

「おやこひろばたかたん」には、授業やボランティアで学生さんも参加し、子どもたちと遊んだ

り保護者の方と話をしたりしながら実践的な学びを深めています。

今年度は切れ目のない子育て支援を目指し、第1木曜日は妊婦の方の参加も受け

付けます。また、おやこひろばの様子を多くの方に発信するためにInstagramも始めます。子育ての環境が変化してきている今、「おやこひろばたかたん」も新たなことに取り組んでいきたいと思っています。

(育児文化研究センター長 青木 信子)



Instagram ▲

🌿 自然のなかで ~ nature と natural ~ 🌿

さらさら ざあ〜っ ピチュピチュ ホ〜ホケキョ 山の上の短大で耳を澄ますと聞こえてくる音だ。森を渡る風を肌で感じながら鳥のさえずりに耳を傾けることは、何と心癒されることであろうか。いわゆる自然が人にもたらすものであり、科学的にも自然の音や緑豊かな環境はリラクゼーションと健康の促進をもたらすと確かめられたようだ。自然音は1/f ゆらぎを持っていることはよく知られている。規則的すぎず不規則的すぎない程よい感覚のことで、人間の心拍、呼吸、脳波も1/f ゆらぎがあるために、私たちは自然音に呼応し心地よさを感じるようである。

今春、世界的音楽家の坂本龍一氏が逝去した。YMOのメンバーとしてシンセサイザーを駆使したテクノポップで世界を席捲、映画音楽では米アカデミー賞を受賞するなど日本が誇る音楽家であった。晩年は癌治療のため作曲活動を休止した時期もあるが、その間に雨が滴る音や風が竹林を吹き抜ける音など好んで自然の音に耳を傾け、これこそ音楽ではないか、この音楽に自分が音を足して音楽を創りたいと思ったとのことだ。電気音のシンセサイザーを奏でた音楽家が晩年は自然と人との調和による音楽を求めた姿は印象深い。

今、「自然とのかかわりと保育、保育者養成」をテーマに学内外で取組みを行っている。そのような中、県内で自然保育を実践する保育者から、自然はnature(自然)とnatural(ありのまま)の意があるとして「子どもがありのままの姿で自らの力を出しやすいのが自然のなかでの保育」との言葉に触れた。「自然と子どもと保育者」が互いにかかわり調和し生きること、とも言えよう。

(子ども学科長 福西 朋子)



卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先
- ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと
- ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

保育者になって

子ども学科 令和4年度卒 權蛇 早紀

①伊賀市社会事業協会ひかり保育園 ②ずっとあこがれていた保育者になれたこと自体とても嬉しいです。毎日が体力勝負で大変な事もありますが、何よりやりがいを感じます。こうすればよかった、と後悔することも多々ありますが、子どもたちに元気をもらい、他の先生や保護者の方と連帯、協力し日々頑張っています。③子どもの気持ちに寄り添い、子どもの自主性を伸ばせる保育士になりたいと考えております。そのために、ひとり一人の発達に応じた見守りや援助のできる保育士を目指します。④私にとって高田短期大学とは保育者としての専門的な知識や技術を培うための場所です。そして、同じ夢を持った仲間との大切な出会い、成長できる場でもあります。⑤短期大学で過ごす2年間はとても短く、濃い学校生活になると思います。その中で得た仲間や知識を大切に、この先へと生かせるように頑張ってください。



在学生の声

高短での生活

子ども学科2年 奥村 百花

短大生活がスタートして1年が経ちました。座学から演習、実践を通して保育の基礎を学び、様々な経験をさせていただきました。不安でいっぱいの実習も、ピアノや手遊び、製作といった実践的な授業での学びが支えとなり安心して挑むことができました。

2年生になり本格的に就職活動が始まりました。就職活動をする中で自分がどのような環境の下で働きたいのか、どのような保育者になりたいのか、自分自身と向き合う時間が増えることと思います。多くのことを学び、考えると同時に最後の学生生活、楽しい思い出が残るよう充実した1年にしたいです。



キャリア育成学科 オフィスワークコース



さらに魅力あるカリキュラムへ

オフィスワークコースは、卒業後地元の企業や公的機関、病院・施設等で主として事務職として活躍する人材を養成します。近年、事務職として求められる役割が変化している中、今後も変わらずに「あなたでなければ」と頼りにされる人材を育てるために、今年度入学生からカリキュラムを一部改訂しました。改訂の主なポイントは以下のとおりです。

地域活性化の方法論を学び、チームで協力してプロジェクトに取り組む。

- 地域マネジメント論
- チームプロジェクト演習 I・II

主体性や
チームワーク力を
身につける。



さらに実践的な資格を支援。

- 広告デザイン演習
→「カラーコーディネーター」
- リテールマーケティング論
→販売士
- 医療接遇演習
→ホスピタルコンシェルジュ
(医療現場での接遇)

資格取得で
自信がつく。ビジネス
や医療の現場
で即戦力に!



企業や公務員試験の筆記試験対策として、基礎学力を向上させ、一般常識を身につける科目を1年次に新設。

- キャリアベーシック I・II

早めの対策で
就職活動への準備も
バッチリ!



このほか、年々早まる就職活動への対策を強化する科目の新設や学生の自主性や主体性を伸ばすためのボランティア科目の充実等を行いました。従来からの授業科目も併せ、自ら考え、主体的に行動できる人材になってほしいとの願いから、授業内外でさまざまな取り組みを行っています。(オフィスワークコース長 野呂 健一)

鈴鹿市白子公民館共催事業 パソコン教室 in 高田短期大学

オフィスワークコース川喜田ゼミでは、令和4年度より地域貢献として、鈴鹿市白子公民館との共催事業「パソコン教室 in 高田短期大学」の取り組みをスタートさせました。年2回の連続講座で、第1回は2年生、第2回は1年生が運営します。短大での学びを活動に生かし、地域の方に還元することが目的です。講座内での受講生へのサポートだけでなく、スクールバスで白子公民館へのお出迎えも行い、目上の方への「丁寧な接遇スキルの実践」を活動のねらいとしています。

終了後には「次回が待ち遠しい」というお声をいただきます。学生達は大きな達成感と、円滑なチームワークで得た短大での学びの意義を実感することで大きく成長します。地域の期待に応えつつ、学生の将来にもつながる活動として、今後とも取り組んでいきたいと思います。

(オフィスワークコース准教授 川喜田 多佳子)



確定申告で【アルバイトの源泉徴収税】を還付

1年生のゼミナールⅠの授業で、津税務署の税務広報公聴官服部恵理子さんをお願いして、『確定申告の概要と実習』を実習講義して頂いた。これは、毎年税務署が若者に租税に関する知識と関心を持たせるために行っている啓蒙活動への協力の一つである。

税金は、取られる意識が先行して、どうしても前向きに取り組みたくないものである。そこで、アルバイト代金を受け取るときに源泉徴収されたものを、確定申告で還付を受けることにより、少しは得になった気分を味わおうというものである。放っておけば、戻ってこない1万円弱の源泉徴収税を合法的に取り返そうという取り組みである。

まず、私たちが健康で文化的な生活を送るための「会費」である税金の意義から始まり、所得税の仕組みと計算の仕方の説明と国税庁HP「確定申告等作成コーナー」で確定申告書を作成した。12月にアルバイト先から交付される源生徴収票と自分の銀行口座さえあれば、確定申告期間に税務署に行けば源泉徴収額が全額返金されることを学んだ。

(オフィスワークコース講師 海住 信行)



知識は金なり 学生アルバイトのトリセツ(大学生編)

大学生のアルバイトは、年間103万円までにしておくのがお得である。俗にいう103万円の壁と言う。これ以上になると源泉徴収額を返してもらうどころか、税金を払わなければならなくなる。そのからくりは、アルバイトで稼いだ所得から、誰もが一律ひいてもらえる給与所得控除55万円と基礎控除48万円の合計103万円にあったのである。さらに、自分が税金を払う上に、親の税金が増加するという二重苦も待ち構えている。まさに、「知識は金なり」である。ご用心! ご用心!

(オフィスワークコース講師 海住 信行)

🔗 キャリア研究センター

キャリア研究センターでは、津市・一身田商工振興会や津市榊原町の湯元榊原館と連携して、地域の活性化に係る事業に取り組んでいます。

●一身田寺内町活性化への取り組み

令和4年度の成果の一つは、和菓子「サンジノイセイモ」の商品化です。一身田商工振興会、高田会館、和菓子店春乃舎よりの依頼で、オフィスワークコース川喜田ゼミの学生さん達が、企画・ネーミング・パッケージデザインまで取り組み、新しい和菓子が誕生しました。「サンジノイセイモ」という名前は、三重の伝統野菜で多気町産の「伊勢芋」を使っていること、「3時のおやつに」に食べてもらいたいということから学生さんたちが提案したものです。高田会館物産展(令和4年5月21日(土)・22日(日))でのお披露目では、学生さん達がPR、販売を行い、2日間で600個を売りました。その後も高田会館やイベントの際などに販売され、好評を得ています。



また、一身田商工振興会から要望を受け、ウォークラリーコース付きの一身田寺内町マップを作成しました。オフィスワークコースの中畑ゼミが作成を担当、完成したマップは、学生さん達が一身田寺内町への来訪者に説明しながら配布したり、一身田商工振興会会員店舗やJR・近鉄の津駅、三重県観光連盟、津市観光協会などに配置したりし、散策やウォークラリーに利用してもらいました。

●新たな連携協定先、湯元榊原館との連携

令和4年9月に津市榊原町の湯元榊原館と本学が連携協定を締結、湯元榊原館で改装予定の日帰り温泉施設「湯の庄」利用者へのアンケート調査を、ボランティアの学生さん達が行いました。アンケート項目の検討、調査票作成、集

計結果の見方など、本学教員がサポートを行いました。

アンケート調査には延べ16人のボランティア学生さん達が参加、500枚近くのアンケートを回収しました。「学生さん達の姿勢も声がけも大変良く、湯の庄の休憩室が明るくなった」と、同館より感謝の言葉もいただきました。

将来的には榊原温泉地域の活性化に資する連携活動につなげていきたいと考えます。

(キャリア研究センター長 中畑 裕之)

総務課

●湯元榊原館との連携協定を締結しました

高田短期大学は湯元榊原館様との連携協定を締結し、令和4年9月30日(金)に本学において協定締結式を行いました。

今回の協定は、津市榊原の温泉地域の活性化をめざし、湯元榊原館様と連携協力すること、また連携協力で学生さん達が実践的パートナーとして参加することで、地域で活躍する人材の育成に資することにもめざしています。

令和4年度は、榊原館様で計画の日帰り温泉改装のためのアンケート調査を行いました(詳しくは、キャリア研究センターの記事を参照してください)。



部の学生さん達が演奏しました。

令和5年度は利用者へのアンケートを基に、本学の学生さん達が地域の活性化策などを提案する予定です。

(事務局次長・総務課長 藤山 真宣)

さらに、令和4年12月18日(日)には、本学吹奏楽部による「いで湯ほっかほっかライブ」を開催、湯元榊原館の日帰り温泉施設「湯の庄」休憩所で、吹奏楽

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

社会人になって

キャリア育成学科 オフィスワークコース 令和4年度卒 秋葉 あんず

①株式会社トヨタレンタリース三重 ②嬉しかったこと:同期と仲良くなれたこと。辛かったこと:現在、本社で研修をしていますが、初めて聞く言葉や覚えることが多いのが大変ですが、同期と楽しく話しながら取り組んでいるのでそこまで辛くはありません。③お客様に接客をしてもらったのが貴方で良かった、またここを利用したいと思って頂けるような接客を身につけることです。④高田短大はビジネスマナーやパソコンスキルなどの実際の現場ですぐに使える技術や知識を身につけれる場所です。実際に研修中に学んだ事を活かせる機会があり、高田短大で学べて良かったと思いました。⑤1年生は学校生活に慣れる事、楽しむ事に集中して欲しいです。2年生は就職活動で不安に思う部分があると思います。何事にも諦めずに取り組むと物事が良い方向に進むと思います。



在学生の声

1年を振り返って

キャリア育成学科

オフィスワークコース2年 岡本 優似

高田短期大学に入学して1年が経ちました。2021年度はコロナウイルスの影響でオンライン授業になったこともあったと聞いていましたが、2022年度は全て対面で授業を受けることができて良かったです。

この1年では、授業や課題を頑張りながら資格取得にも力を入れました。特に日商簿記検定は時間をかけて学びました。分からない部分は友達や先生に教えてもらい、なんとか追いついていけました。覚える内容も多く大変でしたが、合格できて嬉しかったし、挑戦して良かったです。

あっという間の1年でした。2年生では、就職活動と学業の両立を目指し、悔いが残らないような1年にしたいと思います。



キャリア育成学科 介護福祉コース



キャリア育成学科介護福祉コースの取り組み

介護福祉コースでは、良好な人間関係を築く力である「ヒューマンスキル」と多様な人々とともに仕事に取り組むことができる「社会人基礎力」を持ち、介護福祉の専門能力を身につけて、地域社会で活躍できる介護福祉士を育成するため、さまざまな取り組みを行っています。令和4年度の取り組みを一部紹介します。

三重県介護協の取り組み①

FMみえで介護の魅力発信

令和4年12月6日(火)、三重県介護福祉士養成施設協議会の事業の一環として、本学にて在校生が介護の魅力発信をレディオキューブFMみえ火曜日担当三宅舞リポーターとインタビュー形式の生放送で行いました。この日の主役は60歳の定年を迎えたあとに本学に入学し



てくれた2年生の牧戸眞佐子さん。学校に通って良かったことは、同級生と一緒に過ごす学校生活についてでした。年齢も出身国もさまざまで自身とは全く違った考え方に触れたときに色んなことを知ることができたとのこと。また1番思い出に残っていることは、1年次に行ったクリスマスイベント。クラスメイトと協力して一緒に作り上げたイベントが印象に残ったようです。介護の仕事には企画力も大切です。利用者と一緒に楽しむこと、喜んでもらえることが何よりうれしいことです。牧戸さんはほとんど原稿を見ることもなく、自身の瑞々しい言葉で介護の魅力語ってくれました。

昨年度はこの他本学で2回の生放送を学生と協力して行い「介護福祉士の魅力」のPRを実施しました。



牧戸さんと同級生の出口さん。中川先生と～介護実習室にて～

三重県介護協の取り組み②

オンライントークで気軽に介護のお話！



令和5年2月5日(日)、「オンライントークで気軽に介護のお話！」というイベントが本学を拠点としてZoomを利用して開催されました。主催は三重県介護福祉士養成施設協議会です。吉本興業の「三重県住みます芸人」でもあるオレンジ田中哲也さんが司会を務めました。本学の非常勤講師で

特別養護老人ホーム美里ヒルズの世古口施設長ほか、養成校卒業の介護職員や資格なしで高校からすぐ就職して働きながら資格をとった職員、介護福祉士養成校の教員、本学1年生の草深さん、他の養成校の学生など10名のパネラーが集まり、介護の仕事のリアルや魅力、職場の雰囲気、休みの過ごし方、今だから言える失敗談など、とても和やかな雰囲気の中、たくさん話が飛び交った楽しい座談会となりました。この様子はYouTubeでも今後8月頃まで配信されています。



ゼミナールⅢ報告会

令和4年12月27日(火)ゼミナールⅢ合同報告会が大講義室で行われ、2年生の代表者8名が1・2年生全員の前で自身のテーマに沿って発表を行いました。熱心に質疑応答が交わされ、学生さん達の成長の様子が窺えました。思い出に残る有意義な時間となり学長からも講評をいただきました。



(介護福祉コース長 中川 千代)

➊ 介護福祉研究センター

●第50回定例研究会

定例研究会は昨年第50回を迎え、記念すべき第50回目は中嶋麻衣研究員による「子供と職員の育ちあいー障害児通所支援事業所での実践からー」というテーマで、障害児通所支援事業所に勤務されたご経験を振り返って発表していただきました。子供たちと関わるうえで、支援する側は先生ではなく、子供たちや保護者の伴走者として子供の発達に関わっていくことが大切であること、また、子供や保護者の思いやニーズに添った支援をすることや子供たちが、様々なことを経験できる場にしていけることが求められるというお話がありました。

●介護福祉セミナー

介護福祉研究センターでは、昨年12月に「ミュージックセラピー～聴いて感じて、リフレッシュ～」を開催しました。長谷川恭子研究員からミュージックセラピーについて講義を受け、トーンチャイムという楽器を使い、一人ひとりが自分の音を担当しながら、グループ全員で音楽を奏



でる体験を楽しく行いました。

ソプラノ歌手の杉本さんからはクリスマスにちなんだ歌をご披露いただきました。知っている歌もあり、とてもリフレッシュした時間でした。

●介護の未来を考えよう 作文コンクール

高田短期大学の主催事業である、第3回(令和4年度)介護の未来を考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクールの企画運営協力を行いました。



第3回は、令和4年9月15日の募集終了までに690作品(小学校200作品、中学校490作品)の応募がありました。そのうち小学校で11作品、中学校で12作品が受賞し、令和4年11月12日に表彰式が行われました。これからを担う小中学生の、心温まる介護への思いに触れ、とても頼もしく思いました。第3回の文集も出来上がり、小中学校や県内介護福祉施設等に配布する予定です。もっともっと介護を考えるきっかけにつながっていけばと願っています。

(介護福祉研究センター長 上山 由紀子)

🌐 外国人留学生支援室

●外国人留学生支援室の紹介

令和5年度の本学の外国人留学生は2年生が16名(ネパール人13名、中国人、ベトナム人、スリランカ人各1名)、1年生は6名(ネパール人5名、ミャンマー人1名)で全員女性です。新型コロナウイルスの影響で今年の入学者は少ないですが全員が介護福祉コースで介護福祉士を目指しています。

外国人留学生支援室では留学生の日本語学習サポートや、授業での日本語補助等の学びへの支援、施設奨学金の斡旋や、食料品の提供等の生活支援を行っています。



短大の花壇整備のお手伝いをしました。

(外国人留学生支援室長 北川 裕之)

卒業生からのメッセージ

- ①勤務先・進学先 ②就職して嬉しかったこと、辛かったこと ③将来の夢 ④高田短大とは ⑤後輩へのメッセージ

介護福祉士になって

キャリア育成学科 介護福祉コース 令和4年度卒 中山 陽菜

①介護老人保健施設第二嘉祥苑「アコラス」 ②入所のスタッフとして働かせて頂いています。嬉しかったことは、先輩職員の方が親身に指導してくださり、職種を超えて相談もしやすく、とても働きやすい職場であることです。たくさんの業務や技術を伴い、とても責任感があるお仕事なので、覚えることも多く、大変ではありますが、早く慣れて、迅速な対応ができるように日々頑張っています。③利用者様に少しでも楽しく一日を送ってもらうために、業務が忙しくなったとしても利用者様との関わりを忘れず、自然に笑顔を引き出せる介護福祉士になりたいです。④高短は介護の知識・技術を学べるだけでなく、学生と先生の距離も近く、気軽に相談しやすいです。⑤短大の二年間は本当にあっという間に過ぎるので後悔のない充実した毎日を送って欲しいです。



在学生の声

1年で学んだこと

キャリア育成学科

介護福祉コース2年 服部 愛秀

月日の経つのは早いもので、高田短期大学に入学して1年が経ちました。1年生では介護の基礎を学びました。入学当初は知識がほとんどなく不安な気持ちがありましたが、先生方に丁寧なご指導をしていただき、安心して勉学に励むことができました。学校では移動介助や入浴介助などを学び、実践してきました。レクリエーションや認知症の理解などの講義で学んだことを活かし、実習ではより一層学びを深めることができました。

2年生になり、本格的に介護福祉士国家試験対策や就職活動がはじまります。同時に卒業まで残り1年をきりました。行事やクラスメートとの時間を大切に楽しみ、何事も全力で取り組み心残りのない1年間を過ごしていきたいと思っています。



本山参詣と年四回の 仏教行事について

高田短期大学では、例年、午前中に入学式を終えた学生が、午後からは高田派本山専修寺へ移動して、合同参拝を行っています。本学では年四回の仏教行事を通して建学の精神を身につけていますが、本山参詣はその精神発祥の地を訪れるものです。

今年も、同行した教職員も含め、全員が宗祖親鸞聖人の木像が安置されている御影堂に入り、本学の清水谷正尊学長から、本山の歴史、御影堂と如来堂(阿弥陀如来の立像が安置されたお堂)の説明がありました。親鸞聖人は阿弥陀如来さまの智慧と慈悲のすばらしさを教えてくださった方であり、二つの大きな御堂の建立と維持は、その阿弥陀如来さまと親鸞聖人のお心を護り伝えようとした先人の多大なるご苦労の歴史の象徴であり、新入生も御堂に座して手を合わせることで、本学の建学の精神(親鸞聖人が明かされた仏教精神)を身に付けるスタートとなりました。

本学の建学の精神は、平易な言葉で言えば仏教精神に基づいて「ほんとうの人間になる」ということです。学生さん達も教職員も、建学の精神のもとで、ほんとうの人間へと成長していくのです。西光万吉さんという、仏教を学ばれ、「人権活動」で知られている方は、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と叫ばれました。熱とは「ぬくもり」であり、光とは「明るさ」です。仏教の言葉では、「ぬくもり」は慈悲であり、「明るさ」は智慧にあたります。つまり、仏教の慈悲と智慧の学びの中で、相手を思いやる優しい人となり、生きる意味や人の尊さなどが分かる賢い人になっていくのです。本学では、年四回の仏教行事があり、六月の「灌仏会(別名は花まつり)」では、学生さん達および教職員がお花を持参し、講堂のステージを花々で飾り、その美しさと香りに心が満たされます。さらに、高田保育園、高田幼稚園のかわいい園児たちがステージに上がり、花御堂の誕生仏に甘茶を灌ぎ、小さな手と手を合わせますが、その姿に学生さん達も教職員も一般参加者も目を細めます。建学の精神が自然と身に染みこむ貴重な時間と空間、それが仏教行事であります。(仏教行事委員長 松山 智道)



仏教教育研究センター

昔、読んだ書物の中に、次のような会話がありました。
「あなたは何ですか？」
「人間です」
「人間とは何ですか？」
「考えてみます」
「考えてわかることですか？」

「人間」という言葉には、どのような意味があるのでしょうか。「人間性」、「人間味」、「人間らしさ」などの派生語があり、「人で無し」とか「あなたには人の心があるの!？」という厳しい使い方もあります。人間が人間であるためには、何が必要なのでしょう。

また、先ほどの会話と同様に、

「あなたがいる高田短期大学とは、どのような学校ですか」と問われた場合、どう答えたらいいのでしょうか。同じ学科の他の短期大学とは違って、高田短期大学が高田短期大学である独自性は何でしょうか。それは、人が人の心を持って人であるように、建学の精神、建学の心があってこそ高田短期大学であります。

その建学の精神とは、左の欄の『本山参詣と仏教行事』でも述べましたが、親鸞聖人が明かされた仏教精神によって「ほんとうの人間になっていく」ことであります。

仏教教育研究センターは、学内にある他のセンターと同様に「地域連携施設」であります。

その主な活動内容は、本学の建学の精神である仏教の学びが、学内だけに留まらず、学外の地域の方々にも広がることを願って、様々な講座が開かれています。年齢は問いませんので、学生の皆さんも参加できます。

「現代学生百人一首」(東洋大学主催)には、「定期券見せて改札通る時言葉にならぬ誇らしさ」(80歳・夜間中学校)、「大雨の道を急ぎて学校へぬれた教科書胸にだきしめ」(60歳・定時制高校)とありました。

仏教教育は生涯学習です。センターの講座に来られる方々は熱心ですし、輝いておられます。(センター長 松山 智道)



研究 余滴

学び続ける教師の一群像

職務として保育のための造形関係の授業を担当しているが、研究では「文部省師範学校中学校高等女学校教員検定試験」(通称「文検」)の図画科を対象に、戦前期の教員養成制度の全体像の解明に寄与するとともに、中等図画教育の内実を明らかにすることを試みている。

戦前期の学校は、高等師範学校など専門の教員養成機関を卒業する以外にも、多様な背景をもった教員が混在した。「文検」は当時の教員養成ルートの一つで、試験に合格することによって中等教員免許状が取得できる制度であり、平均合格率は10%程度であった。その難関を突破した者は、教科専門の実力が高い教員とし

て認知されていたようである。

受験生たちの汗と涙の受験勉強の様子が赤裸々に綴られている体験記も残っている。それによれば、仕事(大半が小学校の教員)をしながら、一人寝る間を惜しんで実技の練習を重ね、参考書を研究する日々。独学で不足する分は講習会に参加したり、先達に教えを乞うために遠方まで訪問するなどして、学びのネットワークをつないだ。絵が描きたい、教員免許状がほしい、良い生活がしたい等、様々な思いが絡み合うが、彼・彼女らをここまで学びに駆り立てた情熱にいつも惹きつけられるのである。

教師は学び続けることが期待される。一方で、教師をとりまく環境について日々考えさせられる現在において、「文検」が示唆するものを学びとってゆきたい。

(子ども学科講師 亀澤 朋恵)

キャリア支援センター どうする就活

キャリア支援センターとは？

キャリア支援センターでは、平日8時半から17時まで、専任スタッフ7名が進路相談や面接対策、ピアノなどの実技対策のサポートを行っています。進路相談や試験対策の個別対応は30分単位の予約制です。キャリア支援センターの受付簿で予約をとってください。電話(059-253-7000)またはメール(shinro@takada-jc.ac.jp)での連絡も受け付けます。また、センター内の先輩方の受験報告は、高短の歴史と伝統があってこそその独自の貴重な財産です。資料の閲覧は予約なしでいつでもOKです。



「学業と就活の両立」は難しい？

就活スケジュールが年々早まる一方で、短大生は2年間で専門知識や技能を修得しなければなりません。でも、焦る必要はありません。授業も、自治会活動やサークル活動も、アルバイトや趣味も、「今やっていることを社会でどう役立てるか」を意識して取り組む事で、学生生活を充実させることがそのまま就活になります。「笑顔」で「あいさつ」の習慣化も社会人としてのマナー研修と心得ましょう。

就職先はどうやって選んだらいいの？

就活はこの先40年近くお付き合いする相手とのマッチングの場です。ある程度の妥協は必要ですが、「自信がないから」というだけであきらめる必要はありません。納得のいく就職先が見つかるまで、キャリア支援センターが精一杯応援します。

(キャリア支援センター長 眞崎 俊明)

ボランティア活動支援室

ボランティア活動支援室

本学では教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動プログラムを組み、実践させることへの取り組みをしています。

ボランティア活動支援室は、2号館1階にあり、平日8時半から16時半まで開室しています。学外のボランティア活動に関する情報の収集や情報提供や活動前の

事前指導などのサポートを行っています。

- 問い合わせ先
TEL:059-253-3205
FAX:059-253-7001
- Email
takatan-volunteer@takada-jc.ac.jp



(ボランティア活動支援室長 川喜田 多佳子)

保健室 学生相談室 カウンセリング室



保健室紹介

保健室では、皆さんが心身ともに健康で充実した学生生活を送れるようにお手伝いをしています。

学校でケガをしたり体調が悪くなったときには、応急処置を受けたり休養ができます。

健康診断結果に対する保健指導や日々の健康相談を通して、心や身体がより健康になるためにはどうすればいいかを皆さんと一緒に考えていきます。体調面で心配なことがあれば保健室に相談してください。

学生相談室紹介

誰に相談していいかわからないときや大学生活で困ったときは学生相談室を訪ねてみてください。相談内容によって、適切なサポート先を紹介・案内します。

場所は、2号館1階キャリア支援センターの隣です。
(保健室 富永 礼子)

カウンセリング室より

カウンセリング室は、皆さんが学校や日常生活で直面する様々なことに対して、カウンセラーがお話をうかがって、皆さんと一緒に、解決や改善に向けて考えていく場所です。

今、皆さんは、こころや身体、考え方、対人関係などが大きく変化していく大事な時期を迎えています。

不安や悩みなどで、毎日が憂鬱に感じられるようだと残念ですね。

他の人に話すことで、自分の頭の中が整理できたり、新しい視点で見ることができたり、解決の糸口が見つかることもあるでしょう。もちろん、相談の秘密は守られます。

皆さんが希望すれば、箱庭、エゴグラム、性格テストなどもやってみることができます。

あれこれ試すことで、「自分」が見えてくるかもしれません。
(カウンセリング室 亀山 裕美子)



学生自治会

令和5年度の学生自治会執行部は子ども学科5名、キャリア育成学科オフィスワークコース6名、介護福祉コース3名で全員女性というメンバー構成です。昨年までは新型コロナの影響でイベントを行うのは難しいことが多かったですが、今年度は5月にTJC祭、10月に高短祭、さらに1月にも自治会イベントを開催する予定です。

高短祭は大学祭ですが、TJC祭は高短生がチームで競い合う運動会です。優勝チームには豪華景品もあり、気合が入ります。チームで衣装をそろえてゲームに挑みます。

表紙のように楽しいイベントです。高短生の皆さん、一緒にたくさん楽しみましょう。(学生課)



令和4年度
TJC祭の様子

令和4年度
高短祭の様子



部活動の紹介

数ある部活の中から今回は2つの部活を紹介します。

●たかたんネイチャークラブ

以前はネイチャークラブとして活動していましたが、メンバーも心機一転し、昨年12月から「たかたんネイチャークラブ」として再開しました。高田短期大学に隣接する敷地には「たかたんフォレストのびのび広場」があり、近年では「自然保育を学びたい!」という学生も増えています。授業やゼミナール活動以外でも、自然と触れる活動をしたいという声もあり、「たかたんネイチャークラブ」が発足しました。学内や近隣の自然を活かしながら「自然」と「食育」をテーマに活動しています。野菜を育てたり、味噌づくりをしたり、先日は新入部員と一緒に竹飯盒で筍ご飯を作りました。まだまだ手探りで失敗することもあります、「やってみよう!」という経験を学生メンバーが作り出しています。地域の方とのつながりも大切にしながら、今後も活動を続けていきたいと思っています。

活動内容はInstagramでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

(たかたんネイチャークラブ顧問

中嶋 麻衣)



Instagram ▲

●今年こそ東海1部復帰を!

昨年東海2部秋季リーグでは、久しぶりに上位リーグに進出し、本年度の1部復帰の足掛かりをつかみしました。昨年度までは、メンバーがぎりぎりでの戦いが続きましたが、本年度は1年生2年生とも7名ずつ計14名になり、充実した戦力で入れ替え戦への出場権そして1部昇格を目指して4月22日からの春季リーグに全力で戦う決意です。また私たちの大切な大きな目標である勉強と部活動の両立を達成するため、毎日の生活を充実したものにしていきたいと思っています。

(バレー部監督 秋津 修)

図書館公開講座を開催

●図書館主催の

公開講座を実施しました(6月~11月)

2022年度は、新たな試みとして高田短期大学附属図書館 公開講座「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全4講座)を開催しました。抽選で選ばれた15人の方に4講座通しでご出席いただきました。

【講座1】「ドナルド・キーンー日本文学再発見」では、戦前戦中の日本語教育および日本文学全体を俯瞰しました。【講座2】「源氏物語ー序章」では、キーン氏も愛した物語の、小説としての価値について、皆さんと考えました。【講座3】「詩をどう読むか」では、吉野弘、中島みゆき、井上陽水らを取りあげ、書き手のメッセージをいかに読み取るかをお話ししました。【講座4】

「小津安二郎ー世界の評価」では、10年に1度の英国映画雑誌人気投票に合わせ、海外での評価を紹介しました。

毎回講座の終わりに行う座談会では、回を追うにしたがって発言が活発となり、1970年代のフォークソングにまつわる思い出など、会話が弾みました。

本講座はご好評につき2023年度も開催することになりました。学生の皆さんの受講も歓迎いたします。

(図書館司書 瀬古 幸弘)



卒業式・入学式について

令和4年度卒業証書・学位記授与式が、3月17日(金)に举行されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場には卒業生・教職員のみ入場可とし、来賓・保護者のご参加はお断りさせていただきました。



春らしいこの日、卒業生は慣れ親しんだ学舎をあとにしました。

また令和5年度入学式が、4月3日(月)に举行されました。

在学生代表による献灯・献華・献香・華籠献華のあと、新入生代表による焼香、三帰依と仏式にて行われ、新入生代表者が誓詞を述べました。

新入生はこの日より新たな学生生活のスタートを切りました。

(事務局次長・総務課長
藤山 真宣)



令和4年度 入試広報活動と今後の活動に向けて

令和4年度の入試広報活動としては、学生広報スタッフによるSNSを活用した大学生活全般に関する情報発信だけでなく、ハロウィンイベントや対面でのオープンキャンパスの実施等、展開してきました。学生目線による広報活動は、教職員とは異なるアプローチも多く、高校生の皆さんが本学を知る上でも大きな役割を果たしてくれたと感じております。



令和5年度 学生広報スタッフ

また、高大教育交流連絡協議会も対面で行うことができ、協定を締結している高等学校の先生方を本学へお招きし、学科・コース概要や入試に関する説明等も行うことができました。

令和5年度の入試広報活動は教職員の協働を通して大学全体で充実させるだけでなく、7名の広報スタッフの活躍の場も積極的に増やす予定でいます。在学生の皆さんの協力や行事への参加もいただけると幸いです。

よろしくお願いいたします。

(入試広報委員長 寶来 敬章)

新入生研修

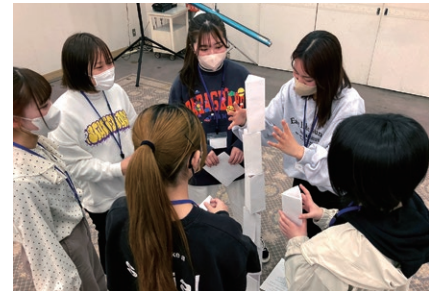
令和5年度の新入生研修が4月24日(月)に実施されました。各学科・コースで協力して活動し、親睦を深めました。



先生も一緒に!?

◀(子ども学科)
ゼミで協力し、創作ダンスを創りあげました。衣装も個性豊かで楽しいひとときでした。

(オフィスワークコース)▶
ペーパータワーでチームビルディングに取り組みました。チーム全員で高く積み上げる方法を考えて競いました。



◀(介護福祉コース)
グループ対抗で「カップ de ツリー」というゲームを行いました。中には各個人がイラストを描いたカップも含まれています。偶然でペンのカップが学生さんの描いたイラストのカップになった場合は特別賞がもらえます。

同窓会の近況

公民館のサークルの先生から、綿の花の種をいただき、種を蒔きました。5粒の種に、愛おしさどどんな芽が出てくるかという期待感で、楽しみでした。いつまで経っても芽が出てきません。よく見ると土の中から茎だけが残っていることに気が付き、新芽を食われたと分かりました。先生に相談すると、「残っているからあげる」と、また種を、いただきました。今度はしっかり予防して二葉が出て無事に育ちました。大きな実になり、はじけるまでの長く感じた事、はじめて綿毛が見えた時は、嬉しさどよく頑張ったなと感謝の気持ちになりました。いつもと違う花の世話に、不思議な感覚を覚えた時間でした。

同窓会活動がようやく出来るようになると、期待しながらの新学期のスタートです。まだまだコロナウイルスは、なくなりませんが、マスクをしている人が、まだまだ多い現状で、花粉対策も気をつけながら進めていきたいです。ラインでのやり取りより、顔を見ながらの方が話が進みますものね・・・。

(北端 一子)

ふるさと納税制度による
高田短期大学への支援

本学の教育環境の充実のため、ご利用いただけますと幸いです。

ご不明点等ございましたら、短大事務局までご連絡下さい。Tel:059-232-2310

【手順】①右のQRコードまたは津市のホームページをご利用ください。



②納税いただくと「使い道」が聞かれます。

③「こどもが未来に向かってかがやくまちづくり(高田短期大学)」を選択いただきますと、納税額の50%が本学へ寄附されます。なお、津市からの返礼品(津市在住の方除く)はお好きなものをご選択いただけます。

着任のみなさん



更に誇れる短期大学を目指して

学監 河北 浩峰

4月より短期大学でお世話になっております河北です。「誇れる短期大学」を目標に教育、研究、社会貢献、学生の皆さんがキャンパスで安心感が得られる一方でわくわく感がある。そういった魅力ある短大創りを目指して学生の皆さん方とともに頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



3年ぶりの高田短期大学

学長補佐 加藤 光博

新型コロナウイルスも落ち着き、学生生活も以前の姿に戻りつつある中、皆さんの笑顔と明るい話し声が聞こえてくるのがとても嬉しく、更にみなさんが楽しく実りあるキャンパス生活を送れるように微力ながら尽力致しますのでよろしくお願いいたします。



これからも地元で…

子ども学科 古谷 淳

4月より子ども学科で、「子どもと言葉」、「保育内容一言葉」、「教育保育カリキュラム論」を担当させていただくことになりました。三重の人々の優しさを基盤にした保育者養成に携われればと考えております。何卒、よろしくお願いいたします。



未だ見ぬ、新たな景色を求めて。

キャリア育成学科 伊東 秀幸

本年度、助教として着任いたしました。これまでに勤務した静岡県内の公立学校と同様に、本学も学生のみならずと喜びを分かち合い、ともに成長する楽しみを一段と得られる環境があります。持続可能な津市を目指し、地域マネジメントを進めます。



学生さんの「学び」に寄り添って

キャリア育成学科 上山 由紀子

4月よりキャリア育成学科で医療的ケア等担当させていただくことになりました。学生さんが学びの中で、興味・関心をもつと、輝く笑顔になります。その笑顔を目指して、一緒に学んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



これまでの経験を活かして

教務課・学生課 高臣 亮太

4月より大学事務局教務・学生課に配属となりました高臣と申します。前職は私立大学に勤務しておりました。これまでの経験を活かし、皆様と協力して本学の発展に貢献できるよう努めて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



新たな気持ちで

総務課 田中 梓

この度、高田中高等学校事務部より異動して参りました。まだまだ分からない事ばかりですが、これまでの経験を活かし、皆様のお役に立てるよう日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



夢に向かって羽ばたく皆さんと共に

キャリア支援センター

倉田 まゆみ

私は公立幼稚園に10年間勤務。その後自宅でピアノ教室をしています。未来ある子供さんたちを育てる仕事をされる学生さんに、輝いて働ける職場を見つけるお手伝いが出来たら嬉しいです。



沢山の経験値を増やして自分の糧に！

ボランティア活動支援室・

学生相談室 杉谷 美華

久しぶりに母校に帰り、後輩の皆さんと一緒にボランティアの輪作りに関われることをとても喜んでます。私の高短時代の感動を皆さんに繋ぎ、皆さんの可能性への挑戦のお手伝いできれば幸いです。よろしくお願いいたします。



人生余滴

やはり人は心よ

梅林 久高(元学長)

皆さんに支えられ楽しい日々を過ごし、学生の皆さんの真摯な学修姿や笑顔に助けられてこの三月学長を退任しました。

旬いは梅よ、花は桜よ、人は心よ、と春の景色を眺めていた四月、ふとお堂の雨がたまる用水に5～6センチの壁っこヤモリの子供が浮いていました。陽光を受けて出てきたのでしょうが手で掬いにとって見るともう死んでいました。可愛い手足には吸盤があるのに、水面から脱出することができなかつたようです。この世には生まれてすぐに命が尽きる生き物が無数にいます。悲痛な出来事です。私たちが人間にも起こります。これが自然の道理で真実であり、仏教の説く諸行無常の姿です。その上、人間はエゴと欲望充足のために愚かな行為の戦争を繰り返し、殺し合っています。聖徳太子の「和をもって貴し」の世界は加速度的に遠のいていくようです。あるいは、快適な文化的生活の名のもとで小動物や生き物も農薬や開発などで減少してきています。私たちが生きていくには常に何かを犠牲にしなければならないのかもしれませんが、人間の罪惡の深さを強く感じます。

私たちは生きていくために様々なことに打ち克って

いかなければなりません。命を賜り当たり前に生きていることの不可思議さに気づくことが求められていると思います。この視点に身心を置けば無数の生き物や人々に支えられていることに感謝の気持ちが湧いて来ます。自他共に命を大切にしようと動き出し、そして、すべての対象に苦を取り除き、楽を与えたいとの慈悲の心が私たちの五感に流れ出てきます。この命が尽きるまで私を活用させようと強く自覚されてきます。根がしっかりしていれば必ずいつか実を結ぶと、人生のあらゆる苦難を乗り越え生きて来られた方の言葉が光を放ちます。

ああ、こうしたい、こうなりたいとの願望を後退させ、また、なんで私は何をしても自信が持てなく、ダメなんだろう、と否定的消極的な思考を停止しよう。そのために自然に眼を向けてみよう。きっと面白くほんわりと包まれる空気を体感するでしょう。新緑の葉にテントウムシなどを発見し、蝶が花に遊ぶ姿に出会い生きている実感を得るでしょう。田んぼの苗が一日一日成長して一面に緑に広がるていく光景から勇気をもらおうでしょう。そこにちよっぴり自分の存在の重さが知られてきます。



人事

○退職

子ども学科
キャリア育成学科
事務局
キャリア支援センター
キャリア支援センター
バレーボール部監督
サッカー部コーチ

特任講師
特任准教授
総務係長

古川 久美子
福田 洋子
青木 陽子
青木 眞理
中村 昭子
秋津 修
松窪 裕子



公 告

令和4年度における学校法人高田学苑の決算は次の通りですので、高田学苑寄附行為第42条の規定に基づき公告いたします。

学校法人 高田学苑
(単位: 円)

貸借対照表 (令和5年3月31日)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(8,045,285,765)	(7,996,493,974)	(48,791,791)	固定負債	(266,357,065)	(263,346,327)	(3,010,738)
有形 固定 資産	(6,084,688,872)	(6,178,073,461)	(△93,384,589)	退職給与引当金	266,357,065	263,346,327	3,010,738
土 地	1,025,122,922	1,025,122,922	0	流動負債	(464,146,769)	(432,987,401)	(31,159,368)
建 物	4,064,688,294	4,086,611,351	△ 21,923,057	未払金	89,930,891	59,112,937	30,817,954
構築物	628,326,808	691,697,195	△ 63,370,387	前受金	286,040,000	285,450,940	589,060
教育研究用機器備品	79,858,778	92,247,638	△ 12,388,860	預り金	26,001,633	27,419,290	△ 1,417,657
管理用機器備品	11,395,538	6,878,396	4,517,142	修学旅行費預り金	56,400,020	55,236,134	1,163,886
図 書	232,161,996	230,067,566	2,094,430	卒業諸費預り金	5,774,225	5,768,100	6,125
車 輦	13,215,058	15,528,915	△ 2,313,857	負債の部合計	(730,503,834)	(696,333,728)	(34,170,106)
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	純資産の部			
特定資産	(1,908,101,236)	(1,797,607,036)	(110,494,200)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
退職給与引当特定資産	263,490,000	263,490,000	0	基本金	(13,049,525,087)	(12,888,432,880)	(161,092,207)
施設設備拡充引当特定資産	1,644,611,236	1,534,117,036	110,494,200	第1号 基本金	12,877,525,087	12,716,432,880	161,092,207
その他の固定資産	(52,495,657)	(20,813,477)	(31,682,180)	第4号 基本金	172,000,000	172,000,000	0
借地権	2,257,500	2,257,500	0	繰越収支差額	(△ 5,151,306,290)	(△ 4,999,803,252)	(△ 151,503,038)
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	翌年度繰越収支差額	△ 5,151,306,290	△ 4,999,803,252	△ 151,503,038
施設利用権	142,380	213,570	△ 71,190	純資産の部合計	(7,898,218,797)	(7,888,629,628)	(9,589,169)
ソフトウェア	26,869,810	1,035,440	25,834,370	負債及び純資産の部合計	(8,628,722,631)	(8,584,963,356)	(43,759,275)
有価証券	13,297,674	13,297,674	0				
差し入れ保証金	350,000	350,000	0				
長期前払金	8,292,313	2,373,313	5,919,000				
流動資産	(583,436,866)	(588,469,382)	(△ 5,032,516)				
現金預金	408,990,971	402,724,770	6,266,201				
未収入金	73,220,599	90,443,927	△ 17,223,328				
前払金	91,212	91,212	0				
立替金	38,959,839	34,205,239	4,754,600				
修学旅行費預り資産	56,400,020	55,236,134	1,163,886				
卒業諸費預り資産	5,774,225	5,768,100	6,125				
資産の部合計	(8,628,722,631)	(8,584,963,356)	(43,759,275)				

令和4年度卒業生 就職先等一覧

子ども学科

◆私立保育園

愛華保育園、あがたが丘保育園、あかつき保育園、伊勢けいゆう塾保育園、伊勢赤十字病院のぞみ保育所、ういず東日暮里保育園、内部ハートピア保育園、大里保育園、大谷台保育園、片田保育園、かもめ保育園、川崎愛児園、かわしま保育園、河原田保育園、熊野私立ひまわり保育園、ぐみの木ほいくえん、ことり保育園、志登茂保育園、しまの杜保育園、白鳩保育園、水沢保育園、第2はなこま保育園、千里丘愛育園、津清泉愛育園、なかよし保育所、長太の浦保育園、にじいろ保育園花園、ニチキッズきおうだい保育園、野登ルンビニ園、野町保育園、ハートピア保育園、はなこま保育園、はな保育室 くわな駅前、浜田保育園、ひかり保育園、日の本保育園、日の本第二保育園、ひばり保育園、ひよこ保育園、松阪清泉愛育園、松阪仏教愛護園、三重大学医学部付属病院さつき保育園、みそら保育園、みどり保育園、箕曲保育園、ゆうゆうキッズ横浜、養泉寺保育園、りとるういず阿佐ヶ谷駅前保育園、わかすぎ第二保育園、若葉保育園

◆私立幼稚園

鈴鹿幼稚園、高田幼稚園、津田桑名幼稚園、津西幼稚園、道伯幼稚園、ときわ幼稚園

◆私立こども園

いつきのみやこども園、風の丘認定こども園、くまだこども園、第2明和ゆたか園、高岡ほうりん認定こども園、高田保育園、竹野の森こども園、津カトリックこども園、認定こども園 いそやま保育園、認定こども園 白百合幼稚園、認定こども園 杜の街ゆたか園、富貴の森こども園、ほうりん認定こども園、ほだじIRORI園、みらいの森ゆたか園、明和ゆたか園、杜の街ゆたか園、ゆたかこども園、ゆたか認定こども園、幼保連携型認定こども園くわな

◆公立保育園

伊勢市立浜郷保育所、伊勢市立保育所しらとり園、亀山市立和田保育園、川越町立南部保育所、紀宝町立鶴殿保育園、鈴鹿市立合川保育所、鈴鹿市立算所保育所、鈴鹿市立西条保育所、大紀町立大宮保育園、多気町立勢和保育園、津市橋南保育園、津市中央保育園、鳥羽市立相差保育園、松阪市立春日保育園、松阪市立第二保育園、松阪市立西保育園、松阪市立三郷保育園、御浜町立阿田和保育園、四日市市立あがた保

育園、四日市市立日永中央保育園、度会町立棚橋保育所

◆公立保育園(臨時)

伊賀市立新居保育所、亀山市立第2愛護園、鈴鹿市立河曲保育所、鈴鹿市立玉垣保育所、津市栗真保育園、津市相愛保育園、津市野村保育園、鳥羽市立あおぞら保育所、松阪市立大河内保育園、松阪市立第一保育園、松阪市立東保育園

◆公立幼稚園

津市川合幼稚園

◆公立幼稚園(臨時)

松阪市立鎌田幼稚園

◆公立こども園

松阪市立三雲北こども園、松阪市立三雲南こども園

◆公立こども園(臨時)

豊田市立本地こども園

◆公立障がい児施設

三重県子ども心身発達医療センター

◆施設

エスペランス四日市、里山学院(河芸)、聖マッテヤ子供の家、地域小規模児童養護施設・美鈴の家、津市神戸地区放課後児童クラブみどりっ子、天理教三重互助園、みどり自由学園、椋本地区放課後児童クラブ 芸濃KIDS、和順寮、こどもサポート教室「さらり」新鈴鹿校、ソレイユキッズ津、放課後等デイサービス むーみん、放課後等デイサービス はびねす、放課後等デイサービスkiddy、放課後の家 明和プライム

◆企業

大紀森林組合、東海電化工業(株)、(株)ニューラル

◆進学

三重県立公衆衛生学院

キャリア育成学科(オフィスワークコース)

◆建設業

旭建材(株)、アルコ(株)、三重レーンマーク(株)

◆製造業

(株)エースパック、(株)きゅうざい、正和製菓(株)、(株)竹屋、(株)中勢ゴム、パナソニックエレクトロニクスワークス電材三重(株)、広伝(株)、三重ブラザー精機(株)、ミズシマ工業(株)、柳河精機(株)、(株)ヨシザワ

◆電気・ガス・熱供給・水道業

(株)キタムラ電気設備

◆情報通信業

(株)アール・エム、(株)サイネックス、(株)東名、

三重電子計算センター

◆運輸業、郵便業

(株)日本陸送

◆卸売業、小売業

(株)アクアメディカル、アドバンサー(株)、(株)TSIホールディングス、(株)フェニックス、三重いすゞ自動車(株)、三重ダイハツ販売(株)、三重トヨタ自動車(株)、三重トヨペット自動車(株)、三重日産自動車(株)、(株)ミツイバウマテリアル

◆金融業、保険業

北伊勢上野信用金庫、三十三銀行、JAみえなか、JA共済連三重、(株)百五カード、(株)百五銀行

◆不動産業、物品賃貸業

(株)トヨタレンタリース三重

◆学術研究・技術サービス

百五不動産調査(株)

◆宿泊業、飲食サービス業

(株)PALME

◆生活関連サービス業、娯楽業

(株)エヌプラネット

◆教育、学習支援業

松和自動車学校、三重高等自動車学校

◆医療・福祉

伊勢外宮前クリニック、(医)同心会 遠山病院、(医)和み会、丸ノ内まつなが眼科、みどりクリニック

◆複合サービス事業

(協組)亜細亜の橋

◆サービス業

イセット(株)、(株)エイジェック、(税)きらめき

◆公務

三重県警察官B

◆進学

三重大学 人文学部

キャリア育成学科(介護福祉コース)

◆老人福祉施設

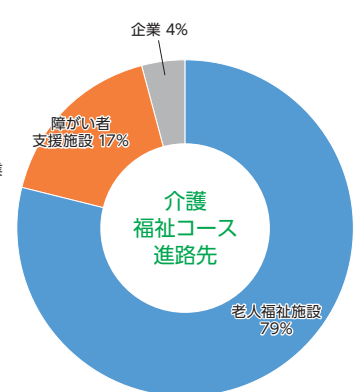
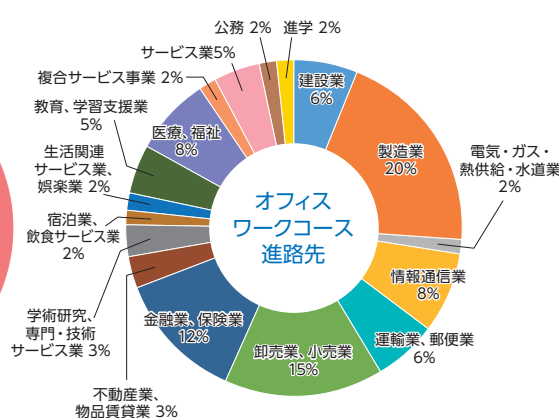
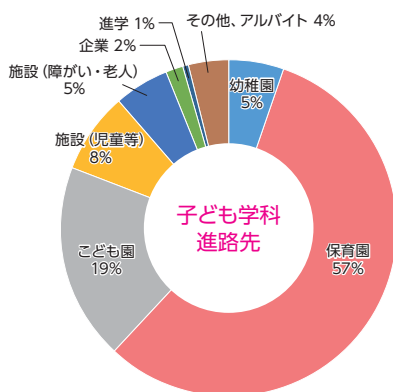
(社福)あけあい会、伊勢温泉観光(株)、(社福)ウェルハート厚生会、株式会社エンブリス、(社福)恩賜財団済生会支部 三重県済生会明和病院、(医)嘉祥会、(社福)弘仁会、(医)佐藤病院、(社福)慈童会、(医)十愛会、(医)緑の風

◆障がい者支援施設

(社福)永甲会、(社福)聖マッテヤ会

◆企業

アンドリゾート(株)



編集後記

高田短期大学通信第58号が発行の運びとなりました。未だ予断を許さないとはいえ、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が解除され、通常の生活に戻りつつあります。年度初めのお忙しいところ、ご執筆頂いた皆様のご協力に心から感謝申し上げます。より読みやすく、親しみやすい紙面を目指し、リニューアルしてから2年目を迎えました。学校内の取り組みを、できる限り写真を豊富に使ってわかりやすく、楽しくお伝えできるよう奮闘しておりますが、まだまだ試行錯誤の途中です。読者の皆様のご感想が励みになりますので、お寄せいただければ幸いです。

※表紙の写真は、令和5年度TJC祭の様子です。12ページの記事をご覧ください。題字は、子ども学科卒業生の谷崎夕真さんの作品です。